

流域治水の取組



函南町間宮



沼津市大平

令和元年東日本台風における県内被害状況



交通基盤部



流域治水の必要性

- 近年、全国各地で自然災害が頻発している。
- 今後も、気候変動の影響により降雨量の増大等が想定されている。

近年の自然災害

年号	出来事
2015	関東東北豪雨
2016	(北海道・岩手) 豪雨
2017	九州北部豪雨
2018	西日本豪雨
2019	東日本台風(台風19号)
2020	令和2年7月豪雨

西日本豪雨



倉敷市 産経新聞

東日本台風(台風19号)



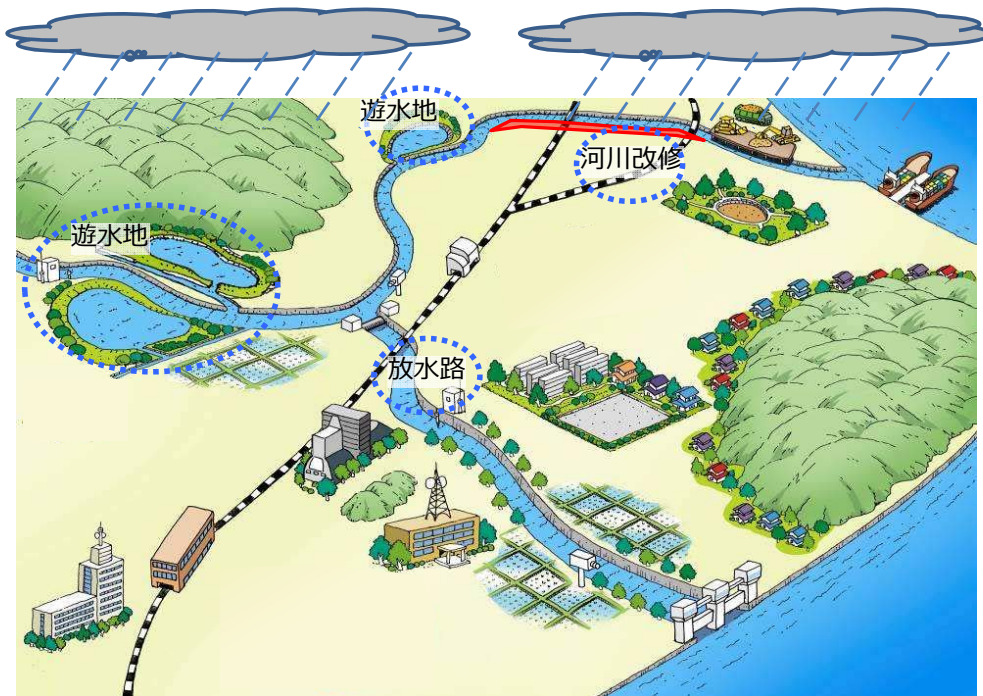
長野市穂安地区 読売新聞

「流域治水」の取組へ

ハード整備の加速化に加え、河川流域のあらゆる関係者が協働して流域全体で行う治水対策「流域治水」に転換。

これまでの治水対策(河川改修)

- 流域に降った雨を早く河川に流入させて、海に流す。
- 市街地で河川改修が困難な場合、必要に応じて遊水地や放水路を整備する。



- ⇒ 想定以上の雨が降ると河川から溢れる。破堤した場合には甚大な被害が発生する。
- ⇒ 河川の水位が上昇すると、河川に流れ込む前に溢れる。(内水被害)

3

これからの治水対策(流域治水)

- 河川改修、遊水地等の整備を加速化し、下水道(雨水)整備とも連携する。
- 流域のあらゆる施設(ため池、水田、民間施設等)を活用し、河川への流入を抑える。
- 災害リスクの低いエリアへの誘導や住まい方の工夫を行う。



- ⇒流域のあらゆる関係者との協働により、流域全体で取り組む。
- ⇒都市部に限らず、全国の河川に対象を拡大。

4

巴川流域における流域治水対策

○静岡市を流れる巴川では、「流域治水」の考え方にに基づき、河川改修や下水道（雨水）整備のほか、調整池や貯留施設等により河川への流入を抑えるなど、流域全体で治水対策を進めている。

河川の整備



下水道の整備



貯留施設等

- ・ 雨水貯留浸透施設の整備
- ・ 保全調整池の指定
- ・ 防災情報の周知など

校庭貯留



保全調整池（民間施設の活用）



「流域治水プロジェクト」

○激甚化する水災害に対応するために、国・県・市町が早急を実施するハード・ソフト対策の全体像を明らかにする「流域治水プロジェクト」をまとめ、対策を実施する。

【イメージ】〇〇川流域治水プロジェクト

★戦後最大（昭和●●年）と同規模の洪水を安全に流す

★…浸水範囲（昭和●●年）

（対策メニューのイメージ）

■河川対策

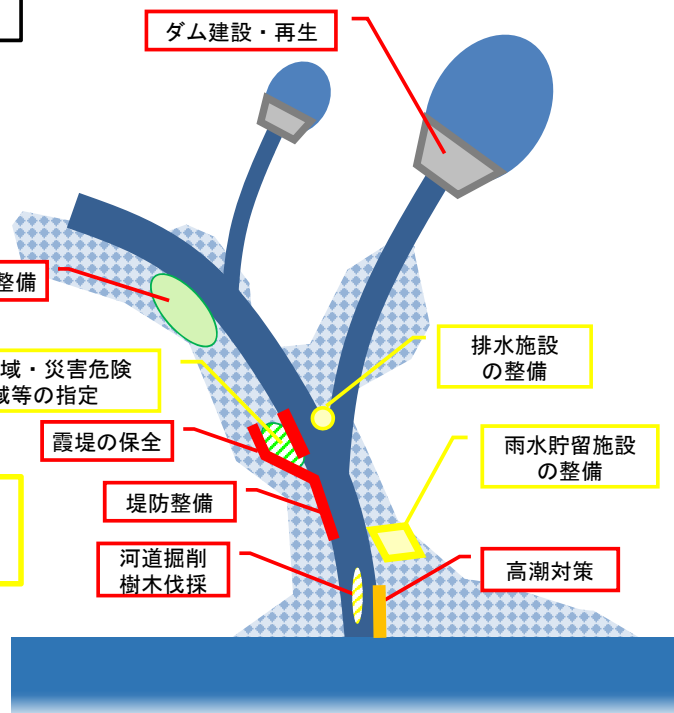
- ・ 堤防整備、河道掘削
- ・ ダム建設・再生、遊水地整備 等

■流域対策（集水域と氾濫域）

- ・ 下水道等の排水施設、雨水貯留施設の整備
- ・ 土地利用規制・誘導 等

■ソフト対策

- ・ 水位計、監視カメラの設置
- ・ マイタイムラインの作成 等



「流域治水プロジェクト」

- 1級水系（6水系）で実施するハード対策、ソフト対策を「流域治水プロジェクト」として令和3年3月にとりまとめ、対策を進めている。
- 2級水系では、浸水被害が頻発するなどにより重点的に治水対策に取り組む36水系で、今年度中に「流域治水プロジェクト」を策定し、安全・安心な災害に強い県土づくりを推進する。

流域治水プロジェクト 実施水系位置図

